

41期

～公開人権教育講座～

医療現場から見える人権

講師 本田 宏氏

(外科医・NPO法人医療制度研究会副理事長)

日時 12月15日(土) 13:30～16:00

会場 鶴瀬公民館 第3集会室

参加者 60名

最初に、小山理事長からあいさつ、山口武士教育長からのご挨拶をいただいた。

講師からの自己紹介

子どもの頃の夢はパイロットで、母の願いから方向転換をして外科医として36年間勤務。

参加者に今、人権が守られているかと問いかけられ、最大の人権侵害は戦争である。

日本国憲法の第25条で基本的人権が規定されているが十分に保障されていないのでは。医療の現場で気づかされたことをお話したい。



講師：本田 宏氏
外科医・NPO法人医療制度研究会副理事長

1. イントロダクション

過労死する医者が多忙さから医療事故を招きかねない。

2002年から医療現場からの情報発信をしているが、16年間変わらず、若い人にどう伝えるかが難しい。誰が医師不足や日本の医療を殺しているのか

本当の医療崩壊はこれからやってくる！

2. 日本の医療、社会保障の現実

日本の母子世帯の貧困率、介護離職が8～10万人・特別養護施設の待機者数が変わらず、介護職離職率22%、施設の充足率44%、世界的には無料が多いのに日

本の学費の高さ、医師絶対数不足（地域的偏在）など世界各国の図表データOECD各国との比較から説明された。

また、国による医療点数を低く抑え込みによる厳しい病院経営と医師不足の加重労働についてと日本の高い薬価をめぐる諸問題を指摘された。



3. 社会保障は明治維新がルーツ

2006年、高岡善人氏の「病院が消える」発表、新聞記事を見る。

一般的には反響がなかったが連絡をして共感。一方、厚生省の吉村 仁氏の医療亡国論が流布。医療の効率的についても広げる。厚生省の世論操作。

渋沢 栄一氏「論語と算盤」官尊民卑を取り上げている。

明治維新 (MEIJI RESTORATION) から150年とマスコミは大きく取り上げているが、実態は王政復古であり、薩長による勝者が書いた歴史に過ぎない！

中国を支配するためにアヘン戦争を裏で操ったイギリスのジャデーイン・アセソン商会が日本の薩長を支援した。戊辰150年。

日本が混迷する理由として発言や著作から紹介すると

岩崎 弥太郎の国あつての三菱、江藤 新平「米国隷属&クレプトラシー」

宇沢 弘文著「社会的共通資本」など

4. 日本人の国民性

日本の学校は考えない人間を5つの方法で生み出している。

フランスの高校生は政府の出した「労働法案」に対する反対デモをしている写真の紹介。高校生でも将来をしっかりと考え、政治的な関心が高い。

フランス人は人生を楽しむために働く、日本人は労働それ自体が目的化？！

日本は、このままでいけば若者、高齢者の引きこもり、孤独死の増加。

歴史を振り返ると、アメリカは10年に1度戦争を起こし、派兵をすることで愛国心を高揚させ不満解消、戦闘で溜まり、だぶつく武器を払底させている。

このままでは、アメリカと同盟関係の日本も戦争に引きずり込まれるだろう。

外国人労働者を入国させようとして治安悪化を恐れているが、これで警備会社がもうかるだろう。すべてが利潤追求を目的化している。





原発事故後の福島を見ると、国は問題が解決したようにオリンピックに邁進している。マスコミもそれに乗かって煽っている。

NHKの会長に人事について国が財界の人間を当てて以来、取材、番組の自由度下がっている。

質疑応答

- ・ 地域的に医師不足、医療にかかれない状況があるが今後はどうなるか
- ・ マスコミでの露出度を高め、地域での講演活動を多くして先生の考えを多くの国民に知らせるには
- ・ 子どもたちの英語教育について
- ・ みんなが平均寿命、健康寿命を延ばし、医療、介護に掛らないことが大事
- ・ マスコミの実態について 良いキャスターやスタッフが更迭される

